

二〇〇五年センター試験「漢文」解説速報

【全体講評】

今年度は、設問形式に大きな変化があった。従来必ずあった返り点や書き下し文を問う設問が消滅した。その結果、設問パターンが語句の意味を問うものと内容読解に関わるものの二種類だけになってしまった。設問はバラエティに富んでいた方がいいと考えるので、この方針転換にはあまり賛成できないが、今まで以上に内容読解の比重が高まったといえよう。難易度としては、平年並みと考えてよいだろう。

【読解のポイント】

授業中にも述べたように、センターではまず全体を通して読んで、文章のタイプと構成をつかむことが重要である。そうすると、この文章は鮑叔と管仲、曹参と蕭何という二組の事例によって、交友関係のあり方について述べようとしていることがわかる。論説系か説話系かといえれば、当然論説系である。さらに詳しく段落ごとに見れば、鮑叔と管仲については二つ、曹参と蕭何については一つのエピソードが語られている。それぞれのエピソードを正確に把握し、主題を導きだすことができるかどうかのポイント。各段落の結びとなっている傍線部A、DおよびEの解釈が重要となろう。

【設問解説】

問1 定番の熟語を選ばせる問題から、ただの読みに後退した。

(a)は簡単。桓公が鮑叔に「質」して、下で鮑叔が答えているので、当然「質問する」という意となり、④が正解。

(b)は、やや難。「負」には、「負ける・負う・そむく」という意味がある。ここは鮑叔が管仲を宰相に推薦したのに、管仲は後任に鮑叔を推薦しなかったという逸話を受ける。負けるや負うはおかしいので、①が正解となる。

問2 単語の意味を問う問題。(ア)は、かなり難。

(ア)「柄」は「ひしやくの柄」というように、手でつかむ「取っ手」の意。そこから「つかんで動かす支配力」のことを言う。熟語は「権柄・政柄」など。考えるヒントは、下の「属」を「しよくする」と読ませている点。この場合の「属」は「嘱」と同じ意味で、「嘱託・委嘱」でわかるように「任せる・委ねる」の意味である。

(イ)基本単語。「ひととなり」が「人柄・性格」であることは、授業も何度かやったので、覚えていたと思う。

問3 構文が押さえられれば、さして難しくはなかったと思う。

Aは、基本句形「不唯A、而又B (not only A but also B)」である。よって文の上半分で①③がまず消える。ついで下半分を見比べると、この文の主語は当然「叔」であるので、②④が消える。

Bは、「其道」の解釈がポイント。下半分は「与えても受け取らない」と言っているので、どの選択肢も消せない。「その道によってでなければ」が、何を言っているのかで判断する。ヒントは上の「鮑叔は君子なり」である。君子というものは、「道理・道義にかなわないものは一切受け取らない清廉さ」を具えていなければならない。よって③と決まる。授業を通して「君子」のイメージがある程度出来上がっていた者は容易であったと思う。

問4 「政治を執ることができない」理由を問うているので、答えは前後の文の中にあるはずである。ここは当然直前の鮑叔の性格について述べた部分である。「一悪を見れば、終身忘れず」から①か②となる。ここはやはり「悪」の方に力点があると見るべきで②を選ぶ。

問5 解釈の問題。いつものように選択肢を横に見て、「管仲と鮑叔の友情は世によく知られているけれども」をヒントにする。あとは「孰知：耶(孰か：を知らんや)」がきちんと訳せれば、さほど難しくはない。「叔が仲を知る」ことは世に知られているが、「仲が叔を知る」ことは「誰が知っているだろうか、いや誰も知らない」。「是くのごとき」と言っているのは当然第二段落の事例を指す。つまり、

管仲が鮑叔の性格を知っていて、後任に推さなかったことを言う。それは「鮑叔の令名を保つ」ためであった。したがって、②か④の選択となる。④は「短所を補って」が文中にないので消える。

問6 鮑叔と管仲、曹参と蕭何の二つの事例の相違がわかれば、難しくはない。管仲と鮑叔の友情は有名だが、管仲は鮑叔を後継者に推薦しなかった。一方、曹参と蕭何は仲たがいでいたが、蕭何は曹参を後継者に指名した。一見正反対に見えるふたつの事例に共通するのは、相手のことを誰よりもよく理解していたからということである。よって③が正解となる。そしてこの文章のテーマはどこにあるかということ、四人のどの固有名詞も含まないコメント文、すなわち第一段落最後の「真に知己なり」に込められていることがわかるであろう。

【書き下し文】

鮑叔、固より已に管仲を微なりし時に識る。仲斉に相たるは、叔之を薦むればなり。仲既に相たりて、内に政事を修め、外に諸侯を連ぬ。桓公毎に之を鮑叔に質す。鮑叔曰く、「公は必ず夷吾の言を行へ」と。叔惟だに仲を薦むるのみならず、又能く之を左右すること此くのごとし。真に知己なり。

仲疾に寝ぬるに及び、桓公詢るに政柄の属する所を以てし、且つ鮑叔の人と為りを問ふ。対へて曰く、「鮑叔は君子なり。千乗の国も其の道を以てせざれば、之を予ふるも受けざるなり。然りと雖も、其の人と為りは善を好みて悪を悪むこと已甚しく、一悪を見れば、終身忘れず、以て政を為すべからず」と。仲幾んど叔に負かずや。此れ正に鮑叔の短を護りて鮑叔の令名を保つ所以なるを知らざるなり。叔の仲を知るは世之を知るも、孰か仲の叔を知るの深きこと是くのごときを知らんや。

曹参微なりし時、蕭何と善し。何の宰相と為るに及び、参と隙あり。何且に死せんとするや、賢を推すに惟だ参のみ。参聞きて亦趣やかに行を治め、「吾且に入りて相たらんとす」と。使者果たして参を召す。参又其の後相を属せらるるや、悉く何の約束に遵ひて、変更する所無し。此の二人の事、管鮑と相反するも、実は相類す。

【現代語訳】

鮑叔はもともと管仲のことをまだ身分が低い時から知っていた。管仲が斉国の宰相となったのは、鮑叔が彼を推薦したからである。管仲は宰相となると、内政では政治を修め、外交では諸侯を連合させた。桓公はいつも管仲のことを鮑叔に質問した。すると鮑叔は、「あなた様は必ず管夷吾の言うとおりに実行なさいませ」と言った。鮑叔はただ管仲を宰相に推薦しただけでなく、さらに彼をこのように助けていたのである。これこそ本当の親友というものである。

管仲が病気で倒れた時に、桓公は政権を任せる者について相談し、さらに鮑叔の人柄について質問した。管仲がお答えして言うには、「鮑叔は君子です。たとえ千乗の大国であっても道理にかなった方法でなければ、与えたとしても受け取らないでしょう。けれども、彼の人柄はというと、善を好んで悪を憎むことが極端で、一度悪事を見たら、一生忘れないので、政治をとることはできません」と。管仲はほとんど鮑叔に背いたのではないか。これはまさに鮑叔の短所を擁護して鮑叔の名声を保つ方法であったことをわかっていないのである。鮑叔が管仲をよく理解していたことを世間は知っているが、管仲が鮑叔をこのように深く理解していたことを誰が知っているだろうか。

曹参がまだ身分が低かった時、蕭何と仲がよかった。蕭何が宰相となった時に、曹参と仲違いした。蕭何は今にも死になつたとき、後任に賢者を推薦するのにただ曹参だけを推薦した。曹参もまた蕭何の訃報を聞くたびに旅行の支度をして「私はこれから朝廷に入って宰相となるつもりだ」と言った。果たして朝廷よりの使者が来て曹参を召した。曹参は、蕭何の後任の宰相を任せられると、すべて蕭何の定めた法令に順って、何も変更しなかった。この二人の事は、管鮑の話とはまったく相反するが、実は同類の話なのである。